保育の安全な環境作りと子どもの主体性の間にある専門性を問う

人間科学部
子ども教育学科
准教授
田中 沙織

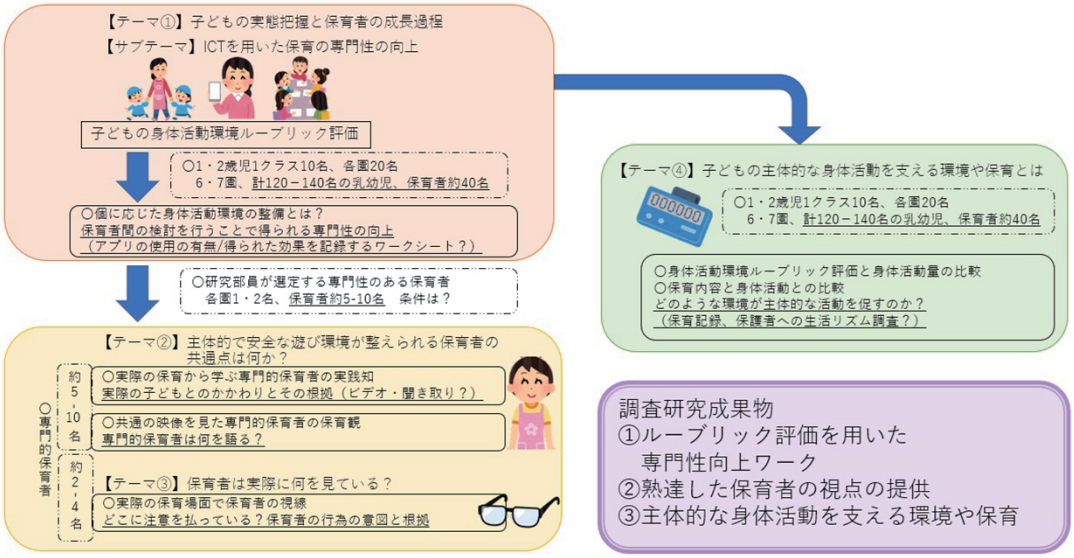
研究シーズの紹介

近年、保育所における業務拡大やコロナ禍による保育者のストレス増大などから保育の担い手が恒常的に不足している。子どもの命を預かる場である保育現場にとっては、このような状況において「子どもの命を守ること」「けがや事故に合わせないこと」という安全な環境を重視するあまり、子どもの「チャレンジする機会」「思いのまま身体を動かす意欲の尊重」が奪われているのではないか。本来、「安全」と「主体性」は育ちに欠かせないものであるが、現状はトレードオフ関係にある保育現場も散見される。そこで本研究は、保育者の危険察知能力と子どもの主体性の間にある専門性について視線計測を手掛かりとして明らかにすることを目的とする。

Point

個に応じた保育環境と保育者の関わりのための評価

①ルーブリック評価を用いた専門性向上のためのワークの提案
②熟達した保育者の視点の提供
③主体的な身体活動を支える環境や保育の実態把握



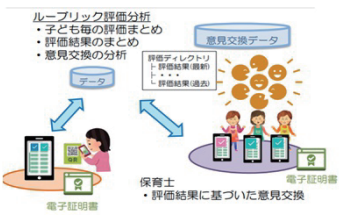
期待される活用シーン

園内研修に
- 研修で熟達した保育者の実践知を活用する
- 園内の遊び環境の見直し

→ 園内の保育の質向上
・保育内容や保育環境の振り返りや改善
・保育者間の視点の共有

保育者の自己評価に
- 保育者個人で評価票を活用する
- 保育に課題を感じている

→ 保育者の資質向上
・一人ひとりの子どもへの関わりを省察
・生活背景や個人差の理解



その他の研究テーマ

・乳児期の保育環境と身体活動評価に関する研究
・幼児期の保育内容と基本的運動の発達に関する研究
・子どもの生活リズムと健康に関する研究